

【学校教育目標】

確かな学力と規範意識を身に付け、郷土高松を誇りに思い、
未来に向かってたくましく生きる子どもの育成

【現状】

- ・ 身体を動かすことへの興味・関心は高く、休み時間には多くの児童が運動場で元気に遊ぶ姿が見られる。その反面、教室等の室内で過ごす子どもも多い。
- ・ 習い事や地域のスポーツ少年団等に加入している児童とそうでない児童の間に、運動習慣や運動能力にかなりの二極化がみられる。

【本校の課題】

- ・ 新体力テストの結果から、全国平均を大きく下回る項目は見られないが、学年が上がるにつれて、全国平均を下回る種目が増えている。
- ・ 特に、20mシャトルラン・立ち幅跳びの値が、県・全国平均と比べて低くなっている。
- ・ 自由に遊べる場や機会が少なく、生活の中での体力作りや体の動かし方を身に付ける場が少ないことが原因と考えられる。

【重点化する具体的取組み】

クラスマッチの実施

体育関連行事や教科体育での運動種目にそって、2・3学期に各学年でクラスマッチ（ボール運動、なわとび）を実施する。その際、各学年の実態に応じて、具体的なめあてを設定し、振り返りを大切にするようにする。



SI活動

5・6年生の希望者による運動部活動を、年間を通して計画的に進める。水泳・陸上運動を中心にしながら、体力づくりに励む。

個人の目標設定を明確にし、体力や技能の伸びを実感できるように工夫する。



運動委員会が計画する運動イベント

昼休みに体づくり運動を中心としたアスレチック系イベントを開催する。安全に配慮し、全身を使うエリアを数箇所設ける。

さらに、クリアできた児童に賞状を配布し、意欲化を図る。



タブレットを活用した授業作り

器械運動や陸上運動、ボール運動などで自分の動きを客観的に見ることで正しい動きを身に付ける。また、ネット型やゴール型の運動では、チームメイトの動きを見ることでより良い作戦を立てたり、動きの工夫ができるようにしたりする。

【目標】

- 学校のアンケートに「体力づくりに取り組んでいるか」を問う項目を設定し、実態を把握する。年度末には当初の結果数値を上回るようにする。
- 運動委員会を中心に昼休みの運動イベントを企画したり、県が主催のあそびんピックへの参加を促したりすることで運動の楽しさを味わいながら、体力づくりに進んで取り組む児童の育成を目指す。